

1) テーマ別検討の概要

これまでの検討テーマに加えて、「こども・子育て」をテーマに検討を行うため、「こども・子育て専門部会」として分科会を設置し、他の専門部会と同様に専門部会の運営・検討についての支援を行った。こども・子育て専門部会では、より詳細な議論を経て、施策案の検討をすすめた。西成区の将来を担う子育て世帯やこども世代についての生活環境づくりは重要なテーマであり、西成特区構想の推進においても、課題整理とその対策等の施策を中心に検討した。「こども・子育て専門部会」の主な検討キーワードは下記のとおりである。

【主な検討キーワード】

こどもの家事業について
プレーパークについて
小中一貫校の教育内容について

「こども・子育て専門部会」について、平成25年度は全5回の開催を予定したが、2月に予定した広く区民の意見を聞くシンポジウム形式での公開型専門部会（第5回）は、市政運営の関係から延期となり、全4回の専門部会にて検討を行った。

【専門部会の実施状況】

準備会 : 平成25年10月4日
第1回 : 平成25年10月16日
第2回 : 平成25年10月28日
第3回 : 平成25年12月9日
第4回 : 平成26年1月20日
シンポジウム（第5回）: 平成26年2月7日（延期）

2) 専門部会における検討の概要

(検討事項の凡例 ●：実施した調査等 / ○：今後の調査・検討事項)

a こどもの家事業について

- 留守家庭児童対策事業への移行
 - ・ 支援内容のあり方などの検討

<今後の調査・検討事項>

- 引き続き支援内容のあり方などの検討

b プレーパークについて

- プレーパーク計画の検討
 - ・ プレーパーク実現に向けたこれまでの検討事項の報告
 - ・ プレーパーク設置に向けた基本方針の検討（新年度に向けた、実施計画の検討など）
- 先進類似事例の研究
 - ・ 類似のスポーツイベント運営経験者による事例紹介と意見交換

<今後の調査・検討事項>

- 事業実施に向けた進捗状況の確認と課題整理
- 事業の実施状況調査
- 事業発展方針の方針検証

c 小中一貫校の教育内容について

- 小中一貫校の教育に関する意見交換
 - ・ 大阪市の「小中一貫した教育」に関する基本方針の紹介（大阪市教育局より）
 - ・ 今宮中学校区における小中一貫校についての意見交換

<今後の調査・検討事項>

- 小中一貫校の教育内容に関する検討

【専門部会の概要】

■ こども・子育て専門部会 準備会

日 付：H25 年 10 月 04 日(金)

時 間：10：00～11:00

場 所：西成区役所 4-7 会議室

出席者：

【有識者】鈴木(学習院大学)、寺川(近畿大学)

【西成区】小田子育て支援担当課長、関屋保健福祉課担当係長

【大阪市】迫野企画担当課長代理(こども青少年局)

【事務局】天野・山本

1. 第1回専門部会開催に向けて・今年度の検討テーマ・調査について

○次回専門部会の検討テーマ

- ・ こどもの家事業の移行
 - 担当局から情報提供
- ・ プレーパークについて
 - 地域メンバーからプレーパークの情報提供
- ・ 小中一貫校について

2. 地域メンバーについて

- ・ 基本メンバー：上田、荘保、関口、西野、蕨川、西口、前島

■ 第1回こども・子育て専門部会

日付：H25年10月16日(水)

時間：10:00～12:00

場所：西成区役所 4-8 会議室

出席者：

【有識者】鈴木(学習院大学)、寺川(近畿大学)

【地域メンバー】関口、上田、蕨川、前島、荘保

【西成区】小田子育て支援担当課長、関屋保健福祉課担当係長

【大阪市】青柳放課後事業担当課長(こども青少年局)、

迫野企画担当課長代理(こども青少年局)、

松元青少年課担当係長(こども青少年局)、

足立指導部首席指導主事(教育委員会)

【事務局】天野・山本

1. 地域メンバーによるテーマ検討

○プレーパークの常設化

- ・未利用地の活用
- ・計画検討段階からのこどもの参画（ワークショップをしながら一緒に創り上げていく）

○こども版 地域包括支援のしくみ

- ・児童自立援助ホーム
- ・里親制度、訪問事業の拡充

○仕事に繋がる就労支援教育（対策）

○スクールソーシャルワーカーの各校常駐

2. こどもの家事業について

○こどもの家事業が留守家庭対策に移行する

- ・代理受領制度（バウチャー制度は予算的に困難）
- ・「留守家庭」の定義の垣根を広げた対策が必要
- ・区単位で、地域の実情に合わせた独自のしくみ作りができないか
- ・妊婦時からの関係性づくりが重要（問題の早期発見、対応）

■ 第2回こども・子育て専門部会

日 付：H25 年 10 月 28 日(月)

時 間：10：00～12:00

場 所：西成区役所 4-7 会議室

出席者：

【有識者】寺川(近畿大学)

【地域メンバー】関口、上田、前島、荘保、西口

【西成区】区長、小田子育て支援担当課長、関屋保健福祉課担当係長

【大阪市】工藤こども青少年課長(こども青少年局)、

迫野企画担当課長代理(こども青少年局)、

足立指導部首席指導主事(教育委員会)

【事務局】天野・山本

1. プレーパークの常設化に向けて

○「プレーパークをつくろう！プロジェクト」についての説明

- ・場所については地域資源活用専門部会でも検討

○プレーパークの常設化のハードル

- ・安全性：警察や地域、PTA 等との協議、連携が必要
- ・プレーパーク以外にも、自宅から歩いて行ける範囲でいつでも行ける「あそばー」みたいな環境が必要。
 - …サテライト拠点とのネットワークや連携が必要
- ・市有地の活用 …ただし、市有地処分の基本方針は売却
- ・身近な公園の活用も必要 …ただし、規制が多く使い勝手が悪い
- ・目指す成果 …公的支援を受けるには具体的な成果とそのエビデンスが必要
- ・地域の公園、統廃合、防災など他のテーマとあわせた一体的なとりくみが必要
- ・プレーパーク常設化に向けた検討に予算が必要

○プロジェクトチームの立ち上げについて

- ・12 月 5 日にシンポジウムの開催
- ・1 月 19 日に西成公園であそぼパークの開催

■ 第3回こども・子育て専門部会

日 付：H25 年 12 月 09 日(月)

時 間：18：30～20：30

場 所：西成区役所 4-7 会議室

出席者：

【有識者】鈴木(学習院大学)、寺川(近畿大学)

【地域メンバー】蕨川、関口、上田、荘保、西口、西野

【西成区】小田子育て支援担当課長、関屋保健福祉課担当係長

【大阪市】迫野企画担当課長代理(こども青少年局)、
足立指導部首席指導主事(教育委員会)、
田中中学校教育担当主任指導主事(教育委員会)

【事務局】天野・山本

1. プレーパーク常設化について

○H27 年度事業開始予定の場合の検討項目

- ・ 人数把握/意識調査
- ・ 積算根拠(事業の整備費)
- ・ 立地場所

2. 小中一貫校の教育内容について

○大阪市の「小中一貫した教育」の紹介

○小中一貫校についての意見交換

- ・ 地域の特性に応じた対応が必要
- ・ 小中カリキュラムの統合などは実施できる
- ・ 学年を超えた教育もできる。
- ・ 一貫校の教員数は定数以上に必要ではないか。(3 校合算という考え方ではない)
- ・ やたなか小中一貫校の特徴：言語力、特別支援学校との連携
- ・ むくのき学園の特徴：キャリア教育(総合学習時間に実施)
- ・ 学習以前にケアソーシャルワーカーが必要ではないか。(地域と連携できる立場の人)
- ・ 特色を活かせる人員配置が必要
- ・ 学校選択制
 - 1 年生から入学が基本/理由がないと転校できない/定員枠の問題がある
- ・ 児童生徒募集の時には特徴を打ち出す
 - 4 校の特徴を考える必要がある。(現 4 校長で理念などを話し合っている)
 - 地域意見を聞くプロセスが必要
- ・ 部活動を小学校ではどのように考えているか
 - 小学校の部活動体験を積極的に。
- ・ 施設は教育内容によって変わるのではないか？
 - 現状の設備等：校舎 1 棟の新築・既存教室の改修(標準的なもの)

電子黒板、LAN 設備

- ・ 小中一貫によって、関係の固定化も考えられる
- ・ 地域の状況に応じた教員の公募ができないか
→ 校長の方針で募集できる（一校で一人）
- ・ 文化、スポーツ、本物に会える学校
→ 工夫はできる。（ワークショップ型でもよいのでは）
→ 学校をサポートできる団体も必要（応援隊）
- ・ 1 人の子どもを多角的にサポートできる体制が必要
→ 母子手帳の活用
→ 教育と福祉の連携

■ 第4回こども・子育て専門部会

日 付：H26 年 1 月 20 日(月)

時 間：18：30～20:30

場 所：西成区役所 4-7 会議室

出席者：

【ゲストスピーカー】山田事務局長(アスリートネットワーク)

【有識者】鈴木(学習院大学)、寺川(近畿大学)

【地域メンバー】蕨川、関口、上田、荘保、西口、前島

【西成区】小田子育て支援担当課長、関屋保険福祉課担当係長

【大阪市】工藤こども青少年課長(こども青少年局)

迫野企画担当課長代理(こども青少年局)、

足立指導部首席指導主事(教育委員会)、

田中中学校教育担当主任指導主事(教育委員会)

【事務局】天野・山本

1. スポーツを通じて子どもの感覚を養う遊び場づくり

○アスリートネットワーク活動の発表

- ・ 活動の概要 : 2010 年 3 月 29 日に設立
2012 年 4 月に一般社団法人化、会員アスリートが約 100 名
- ・ 事業としては、行政・民間とのタイアップ事業を年間 50 本ほど実施
- ・ イベントで終わらせないための工夫
→ モデル事業として、企業に協力し定期的な体力測定
運動をするきっかけづくり・本物を見る機会づくりを行っている
- ・ 今後は、様々な活動とのコラボレーションなどが課題

○プレーパークとの関係

- ・ プレーパークとは多角的な連携の視点、また、西成区との活動連携の視点が重要
- ・ プレーパークは、将来的に行政支援から活動を発展する必要がある、事業の継続性という視点から学ぶべき点がある

○プレーパークの考え方

- ・ 小さな子ども同士の遊びにも本物の感動がある
- ・ 大切なのは日々の遊びの中で、体力などを培うこと
- ・ 事業主体を実行委員会形式が良いのではないか
- ・ 財源確保の課題がある・・・施設の設置目的から、受益者負担は難しい

2. シンポジウムに向けて

○プレーパークの位置づけ

- ・ 子育て子育て支援プログラムの未然防止の中にプレーパークが位置づけられている
- ・ プレーパークの背景にある福祉的な要素、未然防止の大きな枠組みがある
- ・ 地域包括支援センターの導入は、行政的に、まだまだハードルが高い

○発表内容

- ・ 前半：プレーパークを中心とした報告
- ・ 後半：地域包括支援などの背景の報告と考え方の提案